上腕骨外側上顆炎に起因する疼痛に 烏薬順気散加減が奏効した一例

濱口 卓也^a 吉野 鉄大^a 堀場 裕子^a
吉田 祐文^b 渡辺 賢治^a

a 慶應義塾大学医学部漢方医学センター, 東京, 〒160-8582 新宿区信濃町35

b 那須赤十字病院整形外科, 栃木, 〒324-8686 大田原市中田原1081-4

Pain from Right Lateral Epicondylitis Successfully Treated with Uyakujunkisan : A Case Report

Takuya HAMAGUCHI^a Tetsuhiro YOSHINO^a Yuko HORIBA^a
Hirobumi YOSHIDA^b Kenji WATANABE^a

a Center for Kampo Medicine, Keio University School of Medicine, 35 Shinanomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160-8582, Japan

b Department of orthopedics, Nasu Red Cross Hospital, 1081-4 Nakadawara, Otawara-shi, Tochigi 324-8686, Japan

Abstract

Typically, Japanese Kampo doctors use formulas classified for treating blood stasis, to treat pain. However, there have been few reported cases where pain was treated with formulas classified for treating qi stagnation. Here, we report a case of right lateral epicondylitis in a 48-year-old woman who was treated with a focus on qi stagnation and with uyakujunkisan. She underwent conservative treatment at an orthopedic clinic for ten months, but her pain was not relieved. Hence, she opted for Kampo treatment. She was in a state of melancholy, felt heaviness throughout her body, and had irregular menstruation. These symptoms were mainly related to qi stagnation, and hence, we chose uyakujunkisan without white silkworm, but with aconite root. One month later, the stiffness in her shoulder improved and the pain was reduced. Magnetic resonance imaging taken 2 months later showed an improvement in the lesion. Nine months later, her menstruation became regular, and 11 months later, the pain had almost completely resolved and she could comfortably perform activities of daily living. Uyakujunkisan is introduced in the classical textbooks, and we interpret uyakujunkisan as a formula that can treat pain with qi stagnation. In Kampo treatment, effective pain treatment involves consideration of not only local blood stasis but also general qi stagnation.

Key words : pain, lateral epicondylitis, qi stagnation, uyakujunkisan

要旨

疼痛に対しては局所の瘀血に注目し、駆瘀血剤が用いられることが多い。今回、上腕骨外側上顆炎に起因する疼痛に対して、気うつに注目し、烏薬順気散加減が奏効した一例を経験したので報告する。症例は48歳女性、右肘を打撲後、疼痛が持続したため当院整形外科を受診し、上腕骨外側上顆炎と診断された。整形外科で10ヵ月間の保存療法が行われたが疼痛の改善が得られず、漢方治療を希望して当科を初診した。気分が憂鬱になる、身体が重たく感じる、月経が不順であるといった気うつに関連した症状が主で、鬱々とした話し方や表情が見られ、烏薬順気散加減の内服を開始した。1ヵ月後、首や肩の張りは消失し、痛みが軽減した。2ヵ月後、MRIで病変の改善を認めた。9ヵ月後、月経が規則的になり、11ヵ月後、痛みをほぼ感じることなく日常生活を送れるようになった。長引く疼痛で、気うつが強い症例に、烏薬順気散加減が有効である可能性が示唆された。

キーワード : 疼痛, 上腕骨外側上顆炎, 気うつ, 烏薬順気散

緒言

上腕骨外側上顆炎は、伸筋腱起始部の障害、特に短橈側手根伸筋の腱付着部症とするのが一般的である。上腕骨外側上顆炎に対する漢方治療として、田

島らは桂枝茯苓丸による治療効果を報告し、腱付着部での局所の瘀血の存在に言及し¹⁾、また西條は治打撲一方による治療効果を報告している²⁾。このように上腕骨外側上顆炎に伴う疼痛に対しては駆瘀血

図 MRI T2 強調画像

短橈側手根伸筋腱付着部の肥厚と T2 高信号とを認めた。当科初診時 (a) と比較して、烏薬順気散加減の内服開始から 2 ヶ月後には、短橈側手根伸筋腱付着部の肥厚と T2 高信号との改善を認めた (b)。

剤を主体とした処方を用いられることが多い。一方で、上腕骨外側上顆炎に起因する疼痛に対して、気うつに注目し、烏薬順気散で治療を行った症例は報告されていない。今回、我々は上腕骨外側上顆炎に起因する疼痛に烏薬順気散加減が奏効した一例を経験したので報告する。

症例

患者：48歳、女性

主訴：右肘の痛み

既往歴：特記すべき事項なし

家族歴：特記すべき事項なし

生活歴：喫煙は22歳から35歳まで、飲酒は週に6日。排便は1日1回の普通便、排尿は1日6回で夜間に1回。

現病歴：X-1年3月に右肘を自動車のドアで殴打し、その後疼痛が持続したため10月に当院整形外科を受診した。骨折は認めず magnetic resonance imaging (MRI) では短橈側手根伸筋腱付着部の肥厚と T2 高信号を認め、右上腕骨外側上顆炎と診断された。ステロイド注射とロキソプロフェンナトリウム水和物内服、フェルビナク貼付剤の治療を受けたが疼痛は改善しなかった。手術を勧められたが拒否し、漢方治療を希望して受傷から18ヵ月後の X 年 8 月に当科を初診した。

所見：身長169 cm、体重48 kg、BMI16.8、血圧113/64 mmHg、脈拍71回/分。疼痛のため右肘を伸展できなかった。また、鬱々とした話し方や表情が

見られた。舌は淡紅で薄白苔、歯痕、舌下静脈怒張を認め、脈は平で、腹は腹力中等度、右臍傍部の圧痛と小腹不仁とを認めた。初診時の MRI 画像を示す (図 a)。

経過：気分が憂鬱になる、身体が重たく感じる、1日の中で痛みが変動する、月経が不順で4日以上ずれるといった症状を認め、漢方医学的に虚寒中間、寒熱中間、気うつ、瘀血の診断で、烏薬順気散去白姜蚕加附子 (烏薬2.5 g、陳皮2.5 g、麻黄2.5 g、川芎2.5 g、桔梗2.5 g、枳実2.0 g、白芷1.5 g、甘草1.5 g、生姜0.5 g、附子1.0 g) の内服を開始した。2週間後、気持ちの落ち込みは少なくなり、1ヵ月後、首や肩の張りは取れ、痛みが軽減した。2ヵ月後には雑巾を絞ることが出来るようになり、MRI では短橈側手根伸筋腱付着部の肥厚と T2 高信号との改善を認めた (図 b)。5ヵ月後、包丁を使うことが出来るようになった。9ヵ月後には月経が規則的になった。10ヵ月後、肘の痛みは軽度残存していたため、舌歯痕や肘関節の液体貯留を水毒傾向の所見と考え、桂枝加苓朮附湯 (附子3 g) へ転方した。11ヵ月後には痛みをほぼ感じることなく日常生活を送れるようになった。

考察

上腕骨外側上顆炎に起因する疼痛に対し、気うつに注目して烏薬順気散加減を投与し、奏効した一例を報告した。

上腕骨外側上顆炎は、伸筋腱起始部の障害、特に

短橈側手根伸筋の腱付着部症とするのが一般的である³⁾。30～50歳代に好発し、それ以下での若年層では頻度が少ない。「テニス肘」として知られているが、269肘の上腕骨外側上顆炎を解析した報告によると、発症原因の第1位は重量物の運搬で37.9%、第2位は過労で15.6%、第3位がテニスで11.2%であった⁴⁾。上腕骨外側上顆炎患者の約90%は、保存療法開始から半年程度で改善がみられる。しかし、保存療法で改善がみられない症例に対しては、手術療法を選択することがある³⁾⁵⁾。予後が悪いのは上肢の使用頻度が高い症例で⁶⁾、治療後早期に手作業を行った症例は再発率が高いとされる⁷⁾。本症例は整形外科で10ヵ月間の保存療法が行われたが疼痛の改善なく手術療法を勧められており、難治性の症例であった。西洋医学的には整形外科の臨床所見の具体的評価ができておらず残念だが、烏薬順気散加減の内服開始から2ヵ月後のMRIでは短橈側手根伸筋腱付着部の肥厚とT2高信号との改善が見られ、烏薬順気散加減による改善が客観的に評価できた。

上腕骨外側上顆炎に起因する疼痛に対する漢方治療の報告は少なく、桂枝茯苓丸¹⁾、治打撲一方²⁾、薏苡仁湯⁸⁾の報告にとどまる。本症例でも過去の報告のように瘀血は見られ、駆瘀血剤も鑑別に挙げられたが、長期にわたる保存療法で改善がなく、気うつが主に見られたため、気うつに注目して烏薬順気散加減を投与した。当院では白姜蚕が処方できないため去白姜蚕としており、また、疼痛が強かったため加附子とした。

烏薬順気散は烏薬、陳皮、白姜蚕、麻黄、川芎、桔梗、枳実、白芷、甘草、生姜で構成される。原典は『太平惠民和剂局方』であり、主として脳卒中に伴う症状に対して使用されるが、「脚気、歩履艱難、脚膝軟弱、…を治す」とあり、脚気や歩くことが困難な場合などにも応用でき、方後には「気を順す」という記載がある⁹⁾。『万病回春』には「気滯、気鬱、肩膊麻痛の類、…皆之を服するに宜し」とあり、気滯や気鬱による肩や上肢の麻痺疼痛にも良いと記載がある¹⁰⁾。これまでの上腕骨外側上顆炎に対する漢方治療の報告は局所の瘀血に注目した治療であったが、今回我々は気うつに注目して烏薬順気散加減を投与し、奏効を得た。初診時より認めていた月経不順も解消された。我々は「続発性無月経に烏薬順気散が有効だった一例」において、無月経の病態には

血の異常だけでなく気の異常が密接に関係していると報告した¹¹⁾。また、「月経困難症に大柴胡湯単独で奏効した2例」では、楊士瀛の『仁斎直指方』に「気者血之師」と記載があるように、気の状態が血へ影響を及ぼすことを報告した¹²⁾。局所の瘀血が存在しながらも気うつの強い症例に対しては、気うつに注目した治療を行うことで、瘀血も解消されると考えられた。

結語

上腕骨外側上顆炎に起因する疼痛に烏薬順気散加減が奏効した一例を経験した。今後、気うつを伴う疼痛疾患に対し、烏薬順気散を使用した症例の蓄積が望まれる。

附記 本稿の要旨は、第24回漢方治療研究会（2014年9月28日、東京）にて発表した。

また、本稿の症例に使用した烏薬順気散去白姜蚕加附子と桂枝加苓朮附湯の生薬集散地は以下の通りである。

烏薬順気散去白姜蚕加附子：烏薬（浙江省）、陳皮（湖北省）、麻黄（内蒙古自治区）、川芎（北海道）、桔梗（内蒙古自治区/陕西省）、枳实（浙江省）、白芷（韓国）、甘草（陕西省/寧夏回族自治区/内蒙古自治区/甘肅省）、生姜（雲南省）、白河附子（四川省）。

桂枝加苓朮附湯：桂皮（ベトナム）、芍薬（四川省）、大棗（陕西省）、蒼朮（湖北省/陕西省）、茯苓（朝鮮自治区）、甘草（陕西省/寧夏回族自治区/内蒙古自治区/甘肅省）、生姜（雲南省）、白河附子（四川省）。

利益相反（COI）に関して開示すべきものなし。

文献

- 1) 田島康介, 宮坂敏幸, 山下裕, 他. 上腕骨内/外側上顆炎に対する桂枝茯苓丸の治療効果. 漢方医学 2009; 33: 431-433.
- 2) 西條雅康. 上腕骨外上顆炎（テニス肘）に対する治打撲一方の使用経験. 痛みと漢方 2009; 19: 111-113.
- 3) 日本整形外科学会診療ガイドライン委員会. 上腕骨外側上顆炎の診療ガイドライン. 南江堂, 東京 2006. 15-16, 40-41.
- 4) 柏木大治. テニス肘について. 整外MOOK 1983; 27: 98-115.
- 5) 田中雅尋, 別府諸兄. 上腕骨外側上顆炎. 関節外科 2012; 31: 66-67.
- 6) 渡辺幹彦, 栗山節郎, 山上繁雄. 肘の外科の実際 よりよい治療成績のために テニス肘の治療. 整形・災害外科 1997; 40: 643-649.

- 7) Lewis M, Hay EM, Paterson SM, et al. Effects of manual work on recovery from lateral epicondylitis. *Scand J Work Environ Health* 2002 ; 28 : 109-116.
- 8) 緒方政則. 総合医学的治療が奏効した難治性疼痛 2 症例. *痛みと漢方* 2012 ; 22 : 63-67.
- 9) 小曾戸洋, 真柳誠. 和刻漢籍医書集成 増広太平惠民和劑局方 続添諸局經驗秘方. エンタプライズ株式会社, 東京 1988. 38.
- 10) 小曾戸洋, 真柳誠. 和刻漢籍医書集成 万病回春 卷之二中風. エンタプライズ株式会社, 東京 1991. 43.
- 11) 吉野鉄大, 堀場裕子, 渡辺賢治. 続発性無月経に烏薬順気散が有効だった一例. *日東医誌* 2013 ; 64 : 227-230.
- 12) 堀場裕子, 吉野鉄大, 渡辺賢治. 月経困難症に大柴胡湯単独で奏効した 2 例. *日東医誌* 2014 ; 65 : 298-301.